資料1

西東京市放課後子供教室のあり方検討委員会　中間報告

同検討委員会について、現段階における検討状況と今後の方針を以下のとおり報告する。

１　当市における放課後子供教室の現状と課題

（１）開催回数の差が学校間で生じている

放課後子供教室（校庭開放及び学習活動の機会提供）の開催回数について、週５日から月に数回まで小学校ごとに差が生じている。

（２）従事者となる地域協力者の確保が困難

持続可能な担い手の確保及び運営体制の構築。

（３）各学校施設開放運営協議会における運営体制に差が生じている

運営に関わる人員の確保や施設面など、小学校ごとの課題を整理する必要がある。
現在事業実施を行っている各小学校施設開放運営協議会のヒアリングを実施予定。

２　放課後子供教室アンケート調査の実施及び結果の考察

実施内容については以下のとおり。

実施期間	：令和７年７月 18 日～７月 31 日
対象者	：市立小学校 18 校の第２・４・６学年の児童とその保護者
対象児童数	：4,847 名（「児童数・学級数状況表」令和７年６月１日現在）
回答者数	：1,050 名
調査概要	：現在の利用頻度や認知度、今後におけるニーズなど 保護者と子どもの両方の意見を聴取できるよう、項目を配慮

調査結果の考察

- ボール遊びができるという点で校庭開放のニーズが高い
- 学年によらず平日のニーズが高い
- 拡充の優先順位を検討する上でエリアごとの分析を要する
- 体育館や図書室等屋内の開放ニーズについても、一定数存在する
- 授業終了後、一旦家に帰らずにそのまま利用できる等、利便性向上のニーズがある

３　他自治体視察（調布市）について

実施内容については以下のとおり。

実施日時	：令和７年９月 29 日（月）15:00～16:30
訪問先	：調布市立つつじヶ丘児童ホール、調布市立滝坂小学校
調査概要	：調布市における放課後子供教室「あそビバ」及び同市における放課後の子どもの居場所「学童クラブ・児童館・あそビバ」施策について

- 学童クラブと放課後子供教室については同一の事業者に業務委託をしており、情報共有や欠員補充などにおいて連携した対応を取ることができている
- 利用者の増加に伴い空き教室の確保が困難になってきており、特別教室とのタイムシェアを行うなどスペースの確保に苦慮されている

４　放課後子供教室あり方検討委員会の検討事項について

（１）放課後子供教室の安定的な実施の検討　※検討済み

- アンケート調査の結果や子どもの居場所の観点から、開催回数の拡充や学校間の開催頻度の平準化を図る
- 校庭開放の開催日数増を望む声が大きい

（２）持続可能な運営体制の検討

安定的な開催や拡充を行うには、地域の力だけに頼る現在の体制では厳しい状況であり、持続可能な運営体制についてより検討が必要である。併せて、学校施設等の利用可能なスペースの確保について、教育課程に配慮した形での実施検討する必要がある。また、事業の実施にあたっては今後も東京都の補助金活用による財源確保が必須となるため、地域住民等の参画・様々な学習支援活動、交流活動及び体験活動等の機会提供といった要件を遵守したあり方の検討が必要である。

- 新たな地域資源や民間資源の導入を要するか
- 地域住民の参画について
- 十分な運営体制を構築するための、学校施設利用可能スペースの確保について

（３）開催頻度の拡充・平準化に向けた各小学校の方向性の検討

現状の開催頻度、委託先である各小学校施設開放運営協議会の今後の継続的実施の可能性、学区内における子どもの居場所（学童クラブ等）の開所状況等を勘案し、学校ごとの方向性を検討する必要がある。

- 各小学校施設開放運営協議会へのヒアリングと回答内容に基づく検討
- 開催頻度の拡充、平準化や新たな運営体制の検討等を行う地域（小学校）の要件整理